

布能 弘一 さん

【最初に】

まず、5年間ずっと支えてくれた家族に、そして講師の方々、共に勉強してきた仲間に、感謝を申し上げます。この体験談を読んでもくださった皆さんの合格に向け、何らかのヒントがありますように。

【中小企業診断士を受験した動機】

私は、昔から何らかの形で社会貢献ができ、更に独立開業も視野にできるものを得たいと考えていました。そんな最中、自身の業種である IT 以外の資格取得を通じて知識を増やそうとしている際に、複合的な知識をもって社会貢献を行う中小企業診断士を知り、受験を決意しました。

【受験歴・受講歴・成績など】

《本試験》

1次試験：H23、H25～H27(合格)

2次試験：H23～H26(不合格)、H27(合格)

《昨年度(H26)までの2次試験模試の成績》

- ・1～4年目は、大手予備校の教室講座を受講し、4年目は、MMCの通信講座も並行で受講していました。
- ・3～4年目は、大手予備校の模試では毎回上位に掲載され、4年目のMMC模試では、第3回は上位25%、第4回は上位10%ぐらいでした。

《今年度(H27)のMMC通学講座での答練・模試の成績》

MMC通学講座のみ受講しました。答練の成績は、Step 2は平均やや上、Step 3は上位20%以内、GW財務特訓は平均3位、Step 4は2位～ワースト5とバラツキが大きく下降気味、直前答練は7事例が3位以内の一方で2事例が平均以下でした。

また、MMC模試の成績は、第1回は未受験、第2回は全事例が平均やや上、第3回は事例1～3が上位20%以内の一方で事例4が平均以下、第4回は全事例で上位10%以内でした。

MMCの解法プロセスへの土台の再構築に時間がかかり、概ね、年初は平均より少し上、GWまでは急上昇、7月までは不安定かつ下降気味、8月は不安定ながら上昇気味、9月はほぼ安定的、という成績の推移となりました。

【2次試験対策の学習ツール・模試】

MMCからの配布資料以外はほとんど使わず、学習ガイドブック、テキスト、答練、GW財務特訓の問題集、模試などのMMCからの配布資料を中心に勉強しました。

学習ガイドブックを拡張して、重要と思われる講座内容や配布資料、講師のアドバイス、自身の気づき、計算ミスの履歴などを追加して、サブノートの代わりにしました。

MMC以外の予備校の模試は、一切受けませんでした。

MMC 以外の学習ツール・模試を避けたのは「色々な解法プロセスを混ぜた、未検証の自己流プロセスを土台にして、年に 1 度しかない本試験に臨んだ」という 4 年目の敗因分析によるものです。「MMC のやり方で合格者を輩出している」という中居先生の話から、MMC の解法プロセスを土台に据えることが、最も合格に近づくと考えました。MMC の配布資料以外の学習ツール・模試を避けることで、MMC の解法プロセスへと再構築していた土台に、他の解法プロセスが混ざり込まないようにしました。

【2 次試験対策の学習方法】

1 年間を通じて、以下のことに大半の勉強時間を費やしていました。

《学習ガイダンス兼サブノートの読み直し》

前述のように、MMC の解法プロセスの核となる学習ガイダンスを拡張し、サブノートとしていました。1 つのまとまった資料により、MMC の解法プロセスの習得と共に、講義内容・アドバイス・気づき・ミスなどを効率的に復習できたと思います。

《答練の再答案・見直しなどの復習》

再答案および過去問答案は全て提出し、時間が許すか、自身が納得する得点になるまで、再提出しました。再答案では、自身の良い所は残しつつ、答練の解答例や最高得点者の答案の良い所を積極的に真似しました。MMC の講義・答練は、作業標準化・マニュアル化されており、再答案を含む復習により実力を伸ばせ、それが過去問分析や本試験に活かされたと思います。再答案の提出が終わった後も、時折、アドバイス内容や、自身の答案・再答案の遷移(長所・改善点・つまづきやすい所など)を見直していました。

《MMC の解法プロセスで考える事例 1~3 の過去問分析》

MMC への過去問の答案提出を除く、事例 1~3 の過去問分析では、1 度解いた事例は 80 分での解き直しをせずに、以下の手順での考察を繰り返していました。

- ①業種と設問から、MMC の解法プロセスを使い、頭の中だけで、自分なりの解答を考える。
- ②MMC の解答例を見て、自身の解答との違いを知る。
- ③与件・設問を読みながら、出題者の考え方、癖、他年度の過去問との類似点などについて考える。
- ④MMC の各設問の解き方から分析方法を学ぶ。

また、本試験では必ず難問が出題されるため、難問に対する MMC の対応策も分析していました。これにより、難問ぞろいだった B 商店街の事例 2 では、随分と助かりました。

《財務トレーニング》

GW 財務特訓特別講座で配られる問題集 2 冊、および財務答練を中心に、繰り返し解きました。事例 4 の過去問は、全ての年度を 7 月までに 2 回転、直前 2 週間で苦手な年度だけを 1 回転しました。

【2次合格のために特に留意した点など】

意図的でなかったものもありますが、以下のことが合格に繋がった点だったと考えています。

《『”人間である”社長や、出題者・採点者』を意識した論述》

今年度、『社長は、助言を求められる診断士よりも、その分野での知識が少ない』という、ごく当り前のことに気がつきました。このことから、該当分野での知識が少なく困っている『”人間である”社長』に対しては、「①質問に沿って、②経営環境を踏まえてわかりやすく、③切り口を用いて複数の視点から、④診断士(専門家)らしく答える」という「合格の鉄則」と「合格の武器」を用いた、コミュニケーション手法が大変有効であると気がつきました。また、上記とは別に、合格答案研究講座で気がついた『出題者・採点者は”人間である”』という視点からの対策も重要だと気がつき、いくつかの対策を講じていました。

《財務事例ではミスをなくし、高得点ではなく合格点を固く確保する》

財務事例でのミスは合否に直結するため、財務トレーニングを繰り返し、精度を高めました。MMCは、解き方が統一された財務講座や問題集が充実しており、ミスが少なくなる計算プロセスとなっています。本試験で最後の財務事例は、普段体験しがたい異常な環境下であり、読み取りミス・計算ミスは、当り前のように発生するので、以下のことを常に意識していました。

- ・日頃から良質なMMCの財務問題集などに取り組み、プロセス習得とミスをなくす努力。
- ・本試験では、簡単な計算問題を確実に得点するため、難問を切り捨て、検算時間を作り出す勇氣。

《同じMMCの解法プロセスを学ぶ勉強仲間がいたこと》

以下のような、勉強仲間との交流や目標設定などがあったからこそ、今年度の合格がありました。

- ・今年度、私がMMC通学講座の受講を決断したのは、勉強仲間の1人のお誘いがあったからです。
- ・苦手意識のある財務について、財務の成績が安定しているメンバーを目標にしていました。
- ・答練などでのアドバイスの共有、アドバイス返却された過去問解答を用いた勉強会、Facebookでの財務問題集などの質疑応答、モチベーション書籍の紹介など、各種交流により長期間のモチベーションを維持してきました。
- ・7月頃まで行った勉強会では、個々の自己流の披露の場とならず、MMCの解法プロセスを軸に意見交換ができたため、勉強方法への迷いが少なかったと思います。
- ・8月以降は「あくまでも勉強して試験を受けるのは自分自身」と考え、情報共有中心の緩い繋がりに変えたことが、結果的に良かったと思います。
- ・直前期の頃に「計算ミス防止対策として、財務だけは下書き用紙を用意すべきかも？」と思い始め、相談したところ、皆すでにやっているとの話が聞け、スムーズに取り入れることができました。

- ・直前期は、よく「全員合格」という言葉が Facebook 上に投稿されていました。「この目標達成には自分が落ちては駄目だ」と言い聞かせて、勉強意欲を高めました。
- ・「前年度の合格者の再現答案を分析したけど、合格者は1つ要素を削ってでも読みやすさを重視しているのでは？」という情報共有が、本試験の「国内生産維持の強化点と理由」という設問において、解答要素が3つみつかれど、強化点と理由に分解できない要素が1つあった時の対応方針となりました。

《体力・気力の不足への対策》

私は過去、幾度となく財務の答練で高得点を取ったのですが、本試験の財務成績は悪い状況が続きました。直前答練の頃、ふとしたことから「最終事例の事例4では、不注意だけでなく、体力・気力が足りないため、ミスが発生するのでは？」と考えるようになり、以下の対策を行っていました。

- ・体力が低下しているので、無理のない運動として歩く距離を増やし、少しでも体力を維持・向上させる。
- ・気力が足りないので、財務問題は疲れている時間に解き、ミスを誘発させ、それを克服する対策を練る。
- ・後述する本試験当日の体調管理の対策を準備した。

《直前3週間はものすごく伸びる》

直前期まで計算ミスがなくせなかった私は、直前2カ月前から勉強時間の6~7割を財務に充てる、財務特訓モードにシフトしました。しかし、特訓を始めてから本試験10日前ぐらいまでの約50日間、ミスをなくせずに苦しい日々が続きました。ミスをして落ち込むたびに口ずさんでいたのが、前田先生の「直前3週間はものすごく伸びる」と、川橋先生の「財務は筋トレ。精度と速度」というアドバイスでした。これらのアドバイスがあったからこそ、くじけることなく、継続して財務特訓を続けられました。本試験では、解けると判断し、実際に解いた計算問題での計算ミスは、1つもありませんでした。

《本試験中にMMC講師陣のアドバイスを思い出せる準備》

講義中のアドバイスや、最終講義後の配布資料から、アドバイス集を作り、本試験前日まで受験票に挟んで持ち歩き、受験票をみると内容を思い出せるようにしました。本試験では、試験の開始直前や、困ったことがあるたびに受験票をみました。

以下、本試験当日に思い出した、主なアドバイスです。

- ・前田先生
「取るべきところを取り、リカバリーして、フィニッシュする」(事例4の開始直前・終了10分前)
- ・中居先生
「最後の1週間は良い面だけを考える」(本試験当日の朝のトラブル時、事例2の終了後に失敗に気がついた時)
「逃げる」(事例3で根拠の切り分けが難しい設問にぶつかった時)
「財務では、取るべきところをバカ丁寧解く」(事例4の開始直前・終了10分前)

- ・徳川先生
「合格するまで MMC の解法プロセスを崩さない」(全事例の開始直前)
- ・杉森先生
「朝一の事例 1 では、設問に忠実に、事例から離れない」(事例 1 の開始直前)
- ・大谷先生
「本試験はいつもと変わったようにみせるが、本試験での対応は我慢することだ」(事例 2 が商店街への助言だとわかった時、サービス業がわからなかった時)
- ・川橋先生
「終わった事例は忘れる」(事例 2 の終了後に失敗に気がついた時)
- ・伊藤先生
「60 点以上はおまけ」(事例 4 の開始直前・終了 10 分前)
「計算が不要な設問で空欄を作らない」(事例 4 の終了 10 分前)

《本試験当日まで課題を書きつづけたこと》

MMC の答練では、解答用紙に自身の課題を書いてから事例問題を解き始めますが、これを本試験まで続けました。本試験では、課題を「書く・消す」ことに若干時間が取られましたが、課題から外れた行動は少なかったと思います。ちなみに、本試験では、以下の課題を書きました。

事例 1～3 「中心論点を過不足なく、因果で、①②③、～面、キーワード・くくり」

事例 4 「60 点以上はおまけ、リカバリーしてフィニッシュ、(転記前後・四捨五入・単位の)指さしチェック、(設問・下書き・解答用紙の)トライアングルチェック、(下書きでの計算ミスは消しゴムでなく)二重線で消す」

《本試験当日の体調管理》

この体験記を読んでいる皆さんは、前日までの体調管理、昼食、睡眠などの対策は個別に行うと思うので、別の角度から私の行った対策です。

本試験は、興奮状態が継続する一方で、時間と共に脳が疲れていく、ミスしやすい状態で、4 事例に臨みます。インターネットで「脳が疲れた時には、冷やしたタオルなどで頸動脈を通る血液を冷やし、脳内の温度上昇を抑える」や「精神的な効果があるアロマセラピー」などを知りました。これを応用し、本試験では、冷感がありシトラスの香りのウエットティッシュと、冷えピタを用意しました。事例 1 以降の休憩時間は、ウエットティッシュで顔や首筋の汗を拭きとると共に、首の回りや額に冷えピタを貼り、血液を冷やしていました。事例 3 以降は、服の下に冷えピタを貼って試験に臨み、事例 4 の前の休み時間には、新品に貼り替えました。この効果もあったのか、過去 4 年と比べ、最終事例である事例 4 でも冷静な対応ができたと思います。

【勉強生活で役に立ったアドバイス】

若干アレンジしていますが、勉強生活で役に立った講義内容やアドバイスなどを、幾つか紹介します。

- ・直前 3 週間は、ものすごく伸びる。(前田先生)

- ・最後はどつき合いと生き残り合戦で決める。ゆとりの合格、時間の長さで決まる試験ではない。(21の鉄則)
- ・模試の点数に慢心するな。(21の鉄則)
- ・2次試験を1回で合格する人は、布能さんのようなテクニックの蓄積がないのに合格する。答練では、レベルを下げて60点より少し上を目指し、新しいものを覚えるのではなく、余分なものを削ることだ。でも、これには時間がかかるよ。(中居先生)
- ・一度リセットし、MMCのプロセスを取り入れ、合格するまで変えない。(徳川先生)
- ・社長は既に答を持っている。(大谷先生)
- ・「逃げる」ための方法を本番までに用意する。(中居先生)
- ・NPVでのCF算出は公式だと間違いやすい。講義で伝えたCF計算書ベースの計算方法で精度を高め、その上で速度を上げる工夫をすると良い。(中居先生)
- ・財務は筋トレ。速度と精度。(川橋先生)
- ・本試験はいつもと変わったようにみせるが、本試験での対応は我慢することだ。(大谷先生)
- ・取るべきところを取り、リカバリーして、フィニッシュする。(前田先生)
- ・布能さんは、Step 3・4の頃と比べてMMCのプロセスが身についてきている。このまま進むと良いよ。(杉森先生)
- ・60点以上はおまけ。(伊藤先生)
- ・我唯足知。(伊藤先生)

【最後に】

筆記試験の合格発表の後、ふと涙が流れることがあります。診断士試験は、1年で合格する人から10年以上かけて合格する人と様々であり、客観的にみると、私の5年間は長かったか短かったかは分かりませんが、苦しかったのは確かです。これまで、不合格の後に後悔などで何度も泣きましたが、合格後に流れる涙は、うれし涙もありますが、苦しかったことや、色々な人への感謝などが混じり合い、なんで泣いているのかがよく分らない涙です。

ここからが診断士としての始まりであり、これまで以上に苦労があると思います。しかし、ここまでの5年間は、診断士として立たせてもらえない、苦しい時期でもありました。今年度、診断士試験合格という名のドアを固く閉ざしていた何者から、ようやくドアの先に行くことを許された現在、感じることは、実力で勝ち取った気持ちはなく、ただ感謝の気持ちです。

最後に一言を述べ、長々となった私の体験談を終わりとします。

『診断士試験は、諦めなければ必ず合格できる』